

〔今年度の取組と自己評価〕

1 教育活動への取組と自己評価

(1) 学校運営（社会貢献の精神と広い視野に立った世界観を養成する学校）

- ア 「進学指導推進校」として、国公立大学及び難関私立大学で多くの合格者を出すことができた。
- イ 学校全体で、生徒の学ぶ学習意欲に火を点ける授業を目指した。進路部発行の「羅針盤」による自己との対話、生徒の自主的参加による「哲学対話」を行った。
- ウ オリピック・パラリンピック教育アワード校（環境部門）として本校の敷地内にあるイチョウ並木を学習対象とした取組を行った。景観・ギンナン・落ち葉など学校や地域に与える影響を理解し落ち葉のたい肥化に取り組んだ。
- エ 「80周年記念事業」として記念誌及び記念品を作成した。
- オ 施設・物品・予算・仕組の整理・修理・修繕や変更を行い、教職員が働きやすい職場を目指した。
- カ 「人間と社会」、教科、部活動等において、個人でのボランティア活動に励んだ。

【自己評価】

今年も、一般入試最終応募倍率は1.84倍と安定しており、本校に入学したいと思う受験生が多い。ただ、新型コロナウイルス感染症の影響で全部活動の活動が低調になり、多くの学校行事が中止になった。ただ今年度からオンライン学習への取組を進め、常に生徒をサポートできる教育環境を目指していくようになった。外部の方を招いた学校運営連絡協議会、防災教育推進委員会、80周年記念式典も開催することができなかった。教育庁指導部による進学対策指導訪問は1回だけ実施できた。施設の経年化に伴い、改修、修理、修繕を行っている。今年度も引き続きトイレの洋式化工事や校舎の修理、修繕を行い、教育環境の改善を目指している。

(2) 学習指導（自ら学び考え行動する力と向学心を養い、学力を向上する学校）

- ア 「学力スタンダード」を実践し、授業の質的向上及び家庭学習の定着化を目指した。
- イ 長期休業（夏季・冬季）期間を短縮し授業日数を確保した。後期から定期考査期間のチューター制度の活用をし、生徒の学習機会の充実に努めた。
- ウ 自己申告書の面接や管理職による授業観察、教員相互の授業参観等を活用して、授業改善に積極的に取り組んだ。
- エ オンライン学習を進めるための工夫や研修を行った。模擬試験を校内で実施し学力向上の機会を確保した毎年、1・2学年のGTEC（英語4技能検定）を行っている。
- オ 昨年より回数は少なかったが、模擬試験や定期考査の結果を模試分析会や教科会で検討し、学習指導や授業力向上に役立てる取り組みを行った。
- カ JETやALTに触れる機会をつくり、生徒のコミュニケーション能力を高めた。
- キ 本校の今後を見据え、1学年「人間と社会」での「銀杏を宝に」の取組、ランド・デザイン策定、新教育課程の検討を行った。

【自己評価】

学校評価アンケート結果の「生徒の授業に対する満足度」の項目において、昨年度は73.8%であったが、今年度は新型コロナウイルス感染症の影響もあり、62.0%にダウンした。過去8年間で最も低い数値となった。オンライン学習の推進を図る一方で、次年度以降も授業改善に向けた取組を継続していく。

模擬試験では、現段階での学年ごとの特色はあるが、最終的に3学年での進路実績につなげられるように、今後も分析結果を参考に、学習指導を行っていく。

(3) 生活指導（自主・自律の精神を養い、思いやりと規範意識を育てる学校）

- ア 登・下校指導、遅刻防止週間で、基本的な生活習慣やマナーを確立させる取組を行った。
- イ 自転車に関する交通安全について、生徒保健部が中止になり指導をした。
- ウ SNSの使用について、HR、学友会、情報の授業の場等、様々な機会を捉えて指導をした。
- エ 日常の清掃活動と消毒を推進し、ゴミの分別・減量等の環境を守る意識を高めた。共有スペースの清掃活動や消毒も行った。
- オ 学校いじめ対策委員会（拡大生徒保健部会）を機能させ、普段の生徒観察を行った。また、年3回のアンケート等（いじめ調査）を通して、教員間で生徒情報を共有し、いじめ防止に努めた。

- カ 部活動加入率 100%を超えていたが、今年度は、運動部・文化部ともに活動は低調であった。
- キ 避難訓練、アレルギー対応、教育相談委員会、校内の修理・修繕等、様々な危機管理を行った。

【自己評価】

生徒自身が、高校生としての常識や良識等に基づく集団生活を送ることができるよう、自ら考え、判断し、行動できる生徒の指導を行った。生徒の安全・安心に関しては生命に関わるような重大事故はなかったが、自転車通学による事故が毎年何件か発生している。新型コロナウイルス感染症の影響から、学校評価アンケートの「学校行事に対する生徒満足度」は 54.0%、「部活動に対する生徒満足度」は 78.0%で、昨年度より大きく低下している。また、「校内清掃に対する生徒の満足度」も 45.9%で、昨年度より低下している。

(4) 進路指導（能力や個性に応じて、的確な進路を選択する力を育てる学校）

- ア 生徒の希望進路の実現に向け、「3年間のキャリア教育計画」を実践し、進路図書部・学年・教科が連携して学校として組織的・計画的な進路指導を実践した。
- イ 赤本の貸出しや生徒や保護者に対する進路相談態勢を充実させ、進路指導室内の環境を整備した。
- ウ 新型コロナウイルス感染症の影響により臨時休業が続き、模擬試験を予定通り行えず、不安が広がる中、着実な学習の重要性和挑戦する姿勢を最後まで保ち続けることの必要性を、学年集会、保護者会を通じて訴え続けた。
- エ キャリア教育のほとんどは中止になったが、HR等で、それに代わるキャリア教育を実践し、又、進路通信「羅針盤」を通し、自分の生き方を考えさせる啓発を行った。
- オ 「社会的・職業的自立支援教育プログラム事業」「おやじの会」によるキャリア教育をリモートで実施した。

【自己評価】

東京都教育委員会から「進学指導推進校」としての継続指定を受けており、生徒及び保護者の大学進学に対する関心が高く、生徒の希望進路を実現させることは豊多摩高校にとって大きな使命である。

学校組織全体としての進路指導を実践し、生徒個々に対してきめ細かい進路指導を展開した。また、進路指導室内に生徒貸出用赤本を昨年度以上に充実させ、貸出数も大幅に増加した。英語4技能に特化したGTECを1・2学年で実施した。実力テストは、1・2学年2回（11月・1月）に留まったが、2年生には、共通テストの準備と来年度への決意を固めさせるため、共通テスト模試を1月に受験させた。3年生の模試については、例年通りの実施を貫徹した。ただし、新型コロナウイルス感染症の影響で、外部会場での受験がすべて中止となったため、6月、8月の2回は自宅に持ち帰り実施、7月、10月の2回、11月については学校で実施した。

自主学习支援も実施が危ぶまれたが、10月、11月～12月、2月～3月に実施した。卒業生をチューターとして活用し、学習の支援のみならず、進路相談にも応じてもらった。

今年度の現役大学合格実績は、国公立大学36名、難関私立大42名、GMARCH 246名、大学校3名であった。極めて困難な状況下ではあったが、今年度も良好な進学実績を維持することができた。今後も生徒の希望進路の実現を目指していく。

(5) 特別活動（個性や創造力を伸長し、明朗な精神と健康な身体を育成する学校）

- ア 新型コロナウイルス感染症の影響で、学校行事、学友会活動、部活動が制限され、思うようにできなかった。東京都のガイドラインにそって部活動を行うよう努めた。

【自己評価】

豊多摩高校は「真の文武両道」を目指す学校である。新型コロナウイルス感染症の影響で、各行事（合唱コンクール、記念祭、体育祭等）は中止または延期となった。3月に記念祭代替行事を行うことで、生徒は行事の大切さをかみしめていた。記念祭代替行事においては、協調性を育み、帰属意識の醸成を図った。

2 次年度以降の課題

- 1 「自主自律」の教育目標、文武両道の推進
- 2 オンライン学習の推進、自主学习習慣の確立・定着（家庭学習時間の増大）
- 3 進学実績の向上、大学入試共通テスト対応
- 4 新教育課程の編成

参考 重点目標と方策に対する自己評価

(自己評価は達成度として表記：◎高度に達成 ○概ね達成 △一部不十分 ×見直しが必要)

重点目標・方策		数値目標・実績・自己評価等			
(1) 学習指導・進路指導の充実		R2年度実績	R2年度目標	R1年度実績	達成度
①	学校評価の授業に対する生徒の満足度を高める	62.0%	80%	73.8%以上	△
②	長期休業日中の講習等の講座数と受講延べ人数	夏季 29講座		夏季 60講座	◎
		夏季 1973名		夏季 6100名	
③	授業以外における学習時間の定点(5月及び11月)観測の実施	1年	90分	6月 78分	○
				2月 60分	
		2年	90分	6月 72分	◎
				2月 137分	
④	学力向上・定着を目指し、実力テスト(国数英の総合偏差値)の低下を抑える 1年 → 7月期～1年1月期/2年 → 1年7月期から2年1月期	上昇率1年 0.6上昇	1年生0.0未滿下降	下降率1年 0.3下降	◎
		上昇率2年 0.3上昇	2年生2.0未滿下降	下降率2年 2.7下降	◎
⑤	現役での希望進路決定率	80.1%	75.0%	76.0%以上	◎
⑥	国公立大学、早慶上理、GMARCHの合格者数	国公立39名(大学校3)	25名	国公立 26名	◎
		難関私大42名	30名	難関私大 44名	◎
		GMARCH246名	150名	GMARCH 160名	◎
⑦	センター試験全国平均点以上教科・科目数	17科目	19科目	18科目	◎
⑧	センター試験73%得点率(国公立大学)	25.9%		27.4%	◎
(2) 生活指導の充実と活力ある特別活動の推進					
①	基本的な生活習慣の確立に向け遅刻者数を低減させる	1日1クラス平均 0.7人	1日1クラス平均 0.5人以下	0.94人	◎
②	校内美化に関する生徒の満足度を高める	45.9%	60%	50.2%	△
③	生徒部活動の加入率及び部活動満足度	100%以上	100%以上	100%	◎
		78.0%以上	90%以上	88.8%	△
④	コンクールや発表会、公式戦等での上位進出を支援	文芸部全国大会4年連続出場 サッカー部関東大会 東京都予選ベスト32	部活動：硬式野球部全国高等学校野球選手権大会西東京大会ベスト8、サッカー部全国高校サッカー選手権大会東京大会Aブロックベスト16、女子ハンドボール部秋季大会都内ベスト16、剣道部関東高等学校剣道大会東京都予選ベスト16、ラグビー部(U16・U17東京都選抜生徒)、文芸部(全国・関東大会出場、東京都総文祭東京都教育委員会賞部誌部門最優秀校・小説最優秀者)、個人：スケートショートトラック(国体出場)、「話してみよう韓国語」高校生大会日本語エッセイ部門優秀賞・特別賞、岩波ジュニア新書・筑摩プリマー新書合同企画中高生が作る新書POPコンクール入賞、日台文化交流青少年スカラシップ作文部門入賞		△
⑤	学校行事に対する生徒の満足度	54.0%	90%以上	83.8%	△
⑥	生活指導に対する保護者の満足度	83.1%	95%以上	90.1%	△
⑦	特別支援教育や生徒理解に関わる校内研修	1回実施	1回以上	1回実施	○
(3) 開かれた学校教育の推進					
①	11月の授業公開週間の参加者数	17名	500名以上	412名	△
②	学校説明会・見学会等の参加者数	2,215名	9200名	10,373名	△
③	一般入学選抜の最終応募倍率	1.84倍	2倍以上	1.93倍	○